

▼日程第9 一般質問

〔今泉藤一郎議長〕再開します。日程第9 一般質問を行います。3番議員 久保田豊君ほか11名から一般質問が提出されております。順次質問を許可いたします。3番議員 久保田豊君。

〔3番 久保田豊君〕皆さんこんにちは。議長の許可を得ましたので、通告に従い一般質問をさせていただきます。今回は、通年観光と陶器市対策ということでお話をいたしたいと思います。通年観光というのが、今、観光庁の方で予算がついてまして、観光立国推進基本計画というのが国からのもとなっていて、そして市町で通年観光計画というものが立てられています。当町の方はどういうふうな計画になっているのか、またお聞きしますけど、なかなか通年観光ってずっと上げておりますけど、その具体的にじゃあどういうことをやった方がいいのかとか、有田の町は資源が結構あるんですね。普通のところはいろんなことを一つ掘り起こしていろんなことをやられるんですけど、有田は多分そういう意味では文化度も高いし、いろんなことの中で、やりようがあると思うんですね。皆さんご存じのように、今日本の観光というものは年々増えてまして。昨年度が、24年度が3,600万人なんですね、来日が。今年度は4,000万人を越すって言う、計画的には6,000万人ぐらいの計画でおられるみたいなんですけど。その中で京都なんかは、オーバーツーリズムって言って、要は満杯ですよ。いろんな規制をかけられるようなことになっていると思います。と同時に、日本の国が世界から見た時に一番行きたい国に、今ダントツになっているんですね。変わってきてます。そして再度訪れたい国も日本ということになっております。そういう意味では、いろんなところに拡散というか、京都だけとか、北海道だけに集中するのではなくて、いろんなところに行かれるんじゃないかなと。そういう意味では、日本の場合は、資源として、まず一番にあるのがやっぱり食文化というのが非常に挙げられる。次に、自然とか景色、2番目に上がってます。3番目に歴史、伝統文化が挙げられます。4番目にショッピング。そして、5番目に祭りとかイベントが多い。そして7番目が温泉なんですね。そういう意味では、有田近郊も含めていけば、すべての要素がこの地区は携わっているんじゃないかなと。通年観光というのは随時情報発信をすることが通年観光ですので、この後に6項目設けておりますけど、そういう意味では、町長の考えなり、担当課長の考えなりを聞かせて頂きながら進めたいなと。今が絶好のチャンス。じゃあ受け入れ側の当町の態勢がどういうふうになっているかということも、ある程度戦略的に考えていかんと難しいんじゃないかなと。ひなまつり一つでも、テレビであっているのは、いろんなところでやっています。本当にびっくりするくらい。だからそういう中で目立つとかですね、露出するためにはどういうことをやった方がいいのか。

それはやっぱりコラボというか、いくつかの力も借りながらやっていることが一番いいんじゃないかなと。まずは自力なんでしょうけど。自力があって、そしてある意味じゃ他力があって、場力という、この場所は、場所の力はあるわけですから、そういうのを兼ね備えて、今回の質問をさせて頂きたいと思います。第1番目に、通年観光と陶器市のトイレ問題についてということをお聞きしたいと思います。毎回、トイレの話ばかりで申し訳ないんですけど。一つ一つ毎年クリアして良くなっていると思ってます。数というより質もぜひ上げて頂きたいなと。トイレの。ここの役場のトイレもそうなんですけど、今家庭のトイレというのはほとんどウォシュレットが付いていると思うんですね。それと同時にウォシュレットが付くということは、便座の方も温かいですから。冬場座ろうと思ったら座れんぐらい冷たいですもんね。外のところは。それと同時に女の人は直接座りたくないっていう方も多いから、やっぱりそういう衛生上の便座を拭く対応型。ご存じのとおり、ほとんど高速道路、そしてふるさと、なんですか、パーキングがずっとある、ふるさと村みたいなやつは全部ウォシュレット型に対応、替わられてます。いろんな交流の中で、ほかの市町の議員さんあたりとか、運用されている執行の方であるとかお話をするんですけど、何を力入れてありますかっていったら、やっぱりトイレというのは上位陣に入ってくるわけですね。だからここは避けて通れないかなと思っております。そういう意味では、通年観光と陶器市のトイレについてのご質問ですけど。今後どういうふうな計画を立てられているかちょっとお聞きしたいと思います。

〔今泉藤一郎議長〕商工観光課長。

〔堀江商工観光課長〕お答えいたします。陶器市期間中のトイレにつきましては、毎回議員さんからご質問という形で頂いているわけでございますけれども。町と、町と商工会議所におきましても少しずつではございますが、対応と対策というところで取り組んでいる状況でございます。町としましては、今年度、東出張所前、佐賀銀行、現佐賀銀行の前のトイレになりますけど、そちらの方を男子トイレでこれまで1基だったのを、1基増して、2基と。これ大の方ですね。女性用のトイレにつきましては、これまで3基だったのを7基増設しまして、全部で10基という形で対応いたしております。少しでも陶器市時の列の解消につながってほしいと思っているところでございます。また、陶器市につきましては有田商工会議所、こちら主催者でありますけれども、こちらの方に確認しましたところ、今年度、第121回有田陶器市におきましても、仮設トイレ18箇所、92基の設置を予定されておまして、陶器市参加店保有のトイレを貸し出して頂ける店舗への参加負担金の一部助成、授乳室の設置など行われる予定でございます。それと、通年

観光のトイレということでございますけれども、泉山磁石場から東出張所前、大体約2.4キロ
大体あります。その中に常設トイレについては約8箇所ございます。またですね、主な駐車場、
泉山駐車場であったり、前の有田商工会議所の跡地であったりですね、あとは東出張所前の駐車
場、こちらの方には常設トイレを設置してあります。何分、新設でトイレというところについ
ては、やはり場所、地権者等の問題があってなかなか新しいものを建てるということが困難な状
況でございまして、現時点では建て替えを含めて常設トイレの設置ということは予定しておりま
せん。議員さんが言われますとおりですね、トイレの重要性というのは十分理解しておりますが、
何卒ですね、その辺はご理解を頂ければと思っているところでございます。

〔3番 久保田豊君〕 思っているだけではなくて、やっぱり今前向きに課長の方も一つ一つしては頂
いてはいるんですけど、少しやっぱり通年観光の、先程は陶器市に対しての対処はいいとして、
やっぱり通年観光というのを増やすっていう意味では、観光資源というのは、町の課題であるわ
けですからそこに付帯するもの、次に案内板もそうなんですけど、まずはトイレを今年度中にこ
うするとか、今期もう終わるわけなんですけど、来年度はこうしようっていう前向きに一つ、それと
同時にいろんな国の今制度資金がありますので、避難所対策のトイレっていうのも、今、国が相
当予算を付けてますので、コンテナトイレというのも有りなのかなと。何かを工夫しながら1基
でも2基でも増やしていった対応できる状態を作って頂きたいなと思うんですけど、そこら辺は
再度どうでしょうか。

〔今泉藤一郎議長〕 商工観光課長。

〔堀江商工観光課長〕 議員さんがおっしゃられることは十分わかります。理解できます。有田の内山
地区に限って言えば、やはり店舗がそれぞれあるわけですし、できたら、可能であれば新しくト
イレを作るのではなくて、その店舗の方達に協力を頂きながらですね、トイレ、その貸出という
ところで協力頂ければということで考えております。あと、議員さんからありました、コンテナ
トイレですね、それについては災害等ありますので、その辺は慎重にというか、町の方で検討し
ていく必要はあるかと思っております。

〔3番 久保田豊君〕 飲食等とか、店舗は、何らかの今陶器市期間中は補助という形、トイレの新し
く洋式化とかいうのはやっぱりそれはそれで対処して頂いて、多いことに越したことはないわけ
ですから、再度そこも検討して頂きたいなと。町長の方はその辺りは、そのことに対してはどう
思われますか。

〔今泉藤一郎議長〕 町長。

〔松尾町長〕今、議員ご質問のトイレの増強ということに関しましては、やはり我々も限られた予算の中でやっておりますので、そういう住民の方のご協力とか、ご理解を賜りながら、トイレの、陶器市に対しての急増に関してはそこで対応していくのが現実的かなと思っております。どうしてもトイレ等になりますと整備の方も非常にお金もかかってきますので、皆さんに快適にトイレを使って頂けるような環境作りには商工観光課だけではなくて、環境とか含めてしっかりと協議をしていながら、商工会議所さんとそういう受け入れ態勢を構築できればと考えております。

〔3番 久保田豊君〕先程、町長が最初述べられたように、全体的な在り様というのは課題がいっぱい町としてはあるわけですけど、予算も限られてくる。予算の限られた中で再度通年観光という、観光に力を入れるのであればそれは強力に進めて頂きたいなと。毎年2箇所も3箇所もって言いませんので、1箇所ずつ増やしていく。ある程度、そして、有田の駅から踏切までがほとんどないんですね。対応的には。だからそこも含めて部分的なことをちょっと割り振り、考えられていると思うんですけど、割り振りされて、ここは重要だなというところはですね、必要になってくるんじゃないかなと。陶器市は特に駅のトイレも全然足りてませんし、仮設をして、その間がなかなか行つくまで、そこにどこにトイレがあって、次の案内の方にも入るんですけど、そういうことをきちっと整備しながら一つでも前向きにやっては頂いているわけですけど、再度しつこいようですがやって頂きたいなと思います。

〔今泉藤一郎議長〕商工観光課長。

〔堀江商工観光課長〕今、議員さんから、有田駅から踏切まで、あの場所についても、昨年同様のご質問を頂きまして場所の確認をいたしました。なかなか地権者の皆さんであったり、常設するまでのスペースというのがなくて、ちょっと今、止まっている状況ではあるんですが、陶器市期間中においては昨年ですね、そういうご質問、ご提案を頂きましたので、伊万里信金さんの前の方に仮設トイレは設置してお客様の方対応させて頂いているところです。

〔今泉藤一郎議長〕町長。

〔松尾町長〕今、陶器市期間中のトイレに関しては、商工観光課長の方からご説明ありましたとおりで思っております。やはり議員が今回おっしゃっておられる通年観光に向けましては、やはり陶器市というのは異常事態だと思います。有田にとってはですね。それだけマックスを超えている、優に超えているので、そこに対してのトイレの増というのはなかなかイタチごっこというか、もう全然かなわないような状況であります。通年観光という長い365日で考えますと意外と対応できるのではないかなと思っております。先程、施政方針の中でも述べましたが、九州観光

機構さんとか、あと、九州運輸局の、この間、観光部長とも意見交換をさせて頂きながら、有田町としましては、通年観光とは別かもしれませんが、インバウンドにもですね、戦略的にやっていきたいなと思っておりますので、そういった、先程ご提案あったような、観光の面の補助金とかですね、この後にあるであろう看板の設置とか、そういうこともちょっとアンテナを高くしながら、また補助金が取れるようなことも考えながら対応していければと考えております。

〔3番 久保田豊君〕ありがとうございます。ぜひ、前向きには考えては頂いているんでしょうけど、早急に来年度はあと1基、1箇所ぐらい作るつもりで頑張ってもらいたと思うんですけど、そこら辺はどうでしょうか、課長。

〔今泉藤一郎議長〕町長。

〔松尾町長〕商工会議所としっかり話をして前向きには検討したいとは思っています。

〔3番 久保田豊君〕わかりました。ぜひお願いしたいと思います。それでは2番目の案内看板の整備についてということでお聞きしたいと思うんですけど。やっぱりインバウンド、海外からのお客様さんですから、日本語表記だけではなくて、英語、韓国語、中国語あたりが最低でも要るのかなと。わかりやすく、陶器市に向けてもそうなんですけど、史跡がどういうところにあって、そこが駅から何キロでとか、そういうのが、今携帯電話が意外と位置情報のやつがあるんですけど、一目でわかるような何かデザイン性も含めて統一した看板等があればいいなと思ってんですけど。そういう看板等の件に対してはどうでしょうか。

〔今泉藤一郎議長〕商工観光課長。

〔堀江商工観光課長〕こちらの質問につきましても令和4年6月議会の方で同様にご質問頂いているところですが、駅までの主要地点から、あと何分であるとか、あと何キロあるとか、あと案内看板、トイレ案内ですね、授乳室案内、そちらにつきましても主催者であります有田商工会議所の方には対応というところをお願いしているところであります。またですね、先月2月14日の日に陶器市委員会がございましたので、そちらの方でも案内看板等についてはお願いをしたところでございます。

〔3番 久保田豊君〕やっぱり設置の方向でやってほしいですし、再度、そういう陶器市なり、通年観光なりのお話をしておりますので、これはできるまで言い続けたいと思うんですけど。やっぱりあきらめずに、一つ一つ、皆さんの協力がいるわけですから、これは必要だということも課長も町長も多分分かれているんですけど、優先事項の問題と思うんですね。ぜひ予算等含めて知恵を出しながらやって頂きたいなと思います。僕らもやっぱりほかの市町で観光したりすると

きに、今回観光ガイドの件は入れてないんですけど、やっぱりガイドさんがおられたりしたらスムーズに深みというか、自分たちで見て回るよりはガイドがおられた方が、その史跡なり、歴史のことが深まりますので、そういうことも看板等もそうなんですけど、道順なりをしっかりと駅降りたらどうなのか、駐車場止めたらどうなのかっていうその何通りかのことを計画立てられて一気にやれとはいいいませんが、ちょっと主だったところにそういうことが指示できればいいなと思っております。課長自身のその辺の看板等はどことどこに要るかなっていうのは、どうか考えているところはあるんでしょうか。

〔今泉藤一郎議長〕 商工観光課長。

〔堀江商工観光課長〕 看板のことにつきましては、案内もそうなんですけど、今、アプリで、アプリというところでは、申し上げれば、翻訳機という形で、各国の日本語であれば、各国の翻訳ができると、そういうアプリがございます。だから実際看板と言いますか、そちらが必要なのかですね、また、若い方とかはもうすぐアプリで現在地もそうなんですけど、その対応ができるという時代にはなっております。なので、必要な箇所、例えば磁石場案内ですね、あそこでも少ないとか、あとトンバイ堀のところとか、そういうふうな案内が多少少ないというのは大体私も理解しております。ただ、実際設置については本当に必要なかは今後検討していきたいと思っております。

〔3番 久保田豊君〕 案内板でどこどこからどこまでっていうより、それをQRコードで読んだらその周辺がわかるとかですね。プラスアルファで大きな看板を付けろという意味ではなくて、そういう工夫、他の市町のやっていることとか含めて、よく整備されているな、日光なんかもそうだったんですけど、よく整備されているなと思いました。だからぜひ必要性がありますので、そこはアプリなりを工夫しながらやって頂ければ非常に助かるのかなと思っております。ぜひお願いしたいと思います。それでは、通年観光と陶器市の駐車場の確保についてお話をしたいと思えます。先程、陶器市の時はなんとかギリギリというか、去年は見たところ、コロナ禍が3年ありましたので、それと同時にそれが一気に戻りつつある。その中で駐車場がちょっと足りなくて相当うろうろ、車が町内を回ってましたので、そういう意味ではやっぱり陶器市に対しての駐車場の確保というのは非常に足りてないのかなと。前回、有工のグラウンド等はどうでしょうかということをお聞きしたんですけども、今年の対策としては陶器市はどうでしょうか。

〔今泉藤一郎議長〕 商工観光課長。

〔堀江商工観光課長〕 主催はあくまでも有田商工会議所になりますので、こちらの方で会議所さんの

方に確認をいたしました。今年度、今年度の有田陶器市につきましては、会議所の通常運営されている公営という形でされてますけれども、そちらが16箇所、約4,300台、このほかにですね、貸し切りバス駐車場として2箇所、九州陶磁文化館下と泉山防災広場、この2箇所がございます。そのほか、有田ポーセリンパーク、アリタセラ、あと施設ですね、民間の駐車場として約4,000台分以上ございます。合わせて8,300台が準備されているというところでございました。実際ですね、会場近くの駐車場、駐車場、これについてはもう場所がないというところが現実の問題であります。議員さんが言われた有田工業高校ですね、そちらの方も我々、会議所さんの方に行きまして、協議をしました。そしたら有工のグラウンド使用については、以前、陶器市というところで使用はあっておりましたけれども、今ちょっと作りが代わりまして、入口が1つしかない。幅も狭くてちょっと段差があったりして、実際駐車場としては支障があるのではというところでもございました。駐車場難民と言いますか、駐車場に困ってらっしゃる方がおられるということは私も認識しておりまして、会議所の方で駐車場の状況につきましては、有田陶器市のホームページになりますが、陶器市期間中、1時間ごと、昼時は30分毎になりますけれども、今、ずっと随時更新をかけながらですね、その16箇所満車か余裕があるかという案内で対応しているというところでもございました。

〔3番 久保田豊君〕ありがとうございます。確かに有工の駐車場というのはやっぱり前と違って非常に入りにくいなど、使い勝手が悪いなどと思います。それと同時に出店業者の人の駐車場というのが先にありますので、そういうのもどういうふうな対処やられているのか。業者さんですよ、駐車場はどういうふうな確保っていうか、どこに停められてどうなのかっていうのがちょっと僕自身も把握できてませんが、そこはどういうふうな対処法。なんかインフォメーションされたりしているのでしょうか。商工会議所としては。

〔今泉藤一郎議長〕商工観光課長。

〔堀江商工観光課長〕そちらについては、商工会議所の方にちょっと確認をとってしたいと思っております。

〔3番 久保田豊君〕わかりました。何事にも商工会議所に聞いた方が早い形ですね。町は商工会議所の方に主体性を置いてありますので。ただ、いろんな意味でクレーム等は含めて職員さんあたりが陶器市期間中に出られて対処をされてますので多分そういうクレーム等のことはよくわかっているんじゃないかなと思ってます。あえて言っている状態ですのであんまり気になさらずに。ただ、やっぱり足りてないのは足りてないですから、そこはまた先ほど言ったように知恵を

出しがらなんとかですね、やって頂ければいいんじゃないかと。あと一つは、通年観光の駐車場というのも意外とありそうでないんですね。上下にはあったり、するんですけど、間、間になかったりしますので、陶山神社の方もあそこ上がるときに離合ができなくて、結構つながってたりしてます。何か同時にそれも含めて多く往来があるところはそういう確保なりをして頂ければありがたいかなと思ってますけど、陶山神社周辺の駐車場というのはどうでしょうか。商工会議所跡とかあるわけですけど。その手前、佐賀銀行の後ろですね、若干あるんですけどそこも結構満杯になってますよね、部分的には。どうでしょうか。

〔今泉藤一郎議長〕 町長。

〔松尾町長〕 今、ご指摘の陶山神社の参道というか、そこは非常に狭いのは我々も理解をしております。施政方針でも述べましたが、ランドデザインの中でしっかり対応できるように完璧に対応はできないかもしれませんが、そういう交通渋滞とか交通事故が起こらないような計画をしっかりと立てていきたいと思っております。

〔3番 久保田豊君〕 ありがとうございます。駐車場はどうしても今はレンタカーっていうのが非常に増えているんですね。電車で、駅でっていうよりレンタカーが圧倒的に多いかな。そこも含めて駐車場の問題というのは避けて通れませんのでぜひやって頂きたいなと。じゃあ次の4番の陶器市の時の駐車場の位置、迷子対策ということ入れてますけど。毎回、前回もお話しましたとおり、駐車場番号等いろんな対処はされているんですけど。現在、対処法としてはどんなことをやられてますか。

〔今泉藤一郎議長〕 商工観光課長。

〔堀江商工観光課長〕 有田陶器市期間中ですね、駐車場16箇所ございますけれども。こちらに一旦駐車された方については、領収書が発行されます。1回1,000円なんですけども。その領収書にここの公営駐車場は何番ですよというのが記載されております。なので、今回から、例年そうなんですけども、この前の陶器市委員会、2月14日ございました。その際にも迷子対策と言いますか、それについてお願いはしました。渡されるときにですね、ここは何番というところを再度重ねてちょっとお願いをしたいというところで伝えております。また、私有地で駐車場をされているところがあるんですけども、ぜひですね、ここは住所が何々、迷子になった場合、目標ここに来てくださいとか、そういったことをお伝え頂ければ迷子になられる方が少なくなるのかなと思っているところです。

〔3番 久保田豊君〕 ありがとうございます。それも再度お願いしたいと思います。次に、5番目の

駅前周辺の賑わいづくりについてということをお聞きしたいと思います。去年はキッチンカーなりを出されて賛否というか、良かったという方と、近郊のですね、非常ににぎわってよかったという方と。それが出されたことによってうちの売り上げが落ちた、飲食の方なんですけど、落ちたという方もおられましたが。全体的には8割強が良かったという評価されていますので、それはそれでよかったのかなと。若干、ガソリンのにおいとか、いろんなことはあったんですけど、これはこれでよかったのかな。ただ、駅前周辺の賑わいづくりということであれば、やっぱり通常の、通年観光でいけばやっぱり寂しいなと。駅を降りたら何もないと、何もないとはいいませんけど、やっぱり比較的少ないのかなと。今、1件、この間も少し回らせて頂いて、1件はお土産屋さんを作るということで、多分陶器市までには間に合わせるんじゃないかなと。あと1店舗は佐世保の方が買われて、飲食をテナントとして入れたいということを言われていました。ぜひ、誰か僕自身も探して入って頂く人を探したらいいんじゃないかなと。飲食というのは集中的に、例えば時間帯が決まってやられますので、多く集まってでもそこは逆に賑わったりしますので、そういうことを駅周辺ということであればそこに何らかの形で入ってもらうような、キッチンカーというのはある程度はマックスかなとは思いますが、やっぱり空き店舗なんかが結構ありますので、全くこの流れが、今、変わってますので、ぜひ駅周辺というのは今後またお話をしたいと思うんですけど、町のやっぱり庁舎辺りが駅周辺に来ればまた変わっていくのかなと。これは質問というより余談で言っているだけですので。やっぱりそういうことを考えながら駅周辺というのはやっぱり一つの町の要であるから少しやっぱり通年から力を入れて、何らかの形で、それは商工会議所等も含めてやって頂ければいいんじゃないかなと思っております。今回は、通年観光というのも絡めて言ってますので、ぜひ、陶器市だけの問題でなくて通常の形を考えて頂ければと思いますけど、町長そこら辺の考え方は。

〔今泉藤一郎議長〕町長。

〔松尾町長〕やはり駅前の賑わいということは、今、お話になったように陶器市の時にはいろいろなご意見がある中では、私は成功したのではないかなと思います。改善の余地はあると思うので、そこら辺は対応してしっかりと商工会議所さんとか、また出店者の皆さんとか等も協議しながら進めていければと思います。通年観光に関しまして、やはり昔は人も多く活気があったというイメージはありますし、まあ私が小学校の時の陶器市もまさに昔はユニードがありまして、そこまでは本当に有田じゃない業者の人たちだったと思うんですけど、その方達がわざわざ有田まで来てっていうところがありました。一つは、やはり波佐見焼というのが確立して、波佐見のそう

いう業者さんが引かれたというところが一番大きいのかなと思います。陶器市に関しましては。あと、今後、お土産ショップとそういう料飲店か何かできるという期待はできます。やはり我々も何とかしようと思いますが、やはり我々が旗を振ったところでなかなか民間のことに対しては厳しいところがありますので、ぜひそこら辺の地域の方とかそういう方達で盛り上がって頂ければ今回も施政方針でも申し上げましたが、いろんな活用できるような補助金も対応できるかなと思っております。あと、地域一番店として、やはり徳久商店さんとか、ガロさんですね、あとモーターワールドクリエイトさんとか、本当に時間差ですが、非常に賑わっているエリアでもありますので、我々もなんとか知恵を出しながらですね、ぜひ九陶までのアプローチがあそこが元気になると多分有田もまたもう一つ元気になるんじゃないかなという思いはありますので、皆さんからお知恵を借りながら前向きに、ぜひ積極的に研究して検討していきたいと思います。

〔3番 久保田豊君〕ありがとうございます。ぜひ賑わいが戻って来るような町にして頂けたらと思います。じゃあ次の6番目、陶器市の時の出店減少対策について、もう目立ってやっぱり少なくなっているなど。これを細長い、非常に長いアプローチですから、非常に難しくはあるんですけど、昨年の11月の時にちょうど唐津のくちに出かけましたけど、飲食というか、普通の露店の飲食が無茶苦茶多いなど。ここ、なんでこんなに多いんだろうかと思うぐらい、溢れかえるくらい多かったですね。それなりにどこも繁盛してましたけど。多分バルーンの中止に伴って、そっちの方に流れて来られたのかなと。それは僕は確認してはいないんですけど、何らかの形で人が集まるということは、そこに付帯するもの、信長がよく言っていた「楽市楽座」何でもある。人が集まればそういうものの動きというのは変わってくるし、消費もそうでしょうし、賑わいづくりという意味では有田の陶器市も過渡期に来ているのかなと。何か出店減少の対策ということで僕自身が考えているのは、例えば世界陶器市とか、なにか銘を打って、何かが付く、日本一の陶器市っていうより、世界の陶器市、じゃあ世界の陶器市についてもマイセンもどこでもあるでしょうからそういうのも若干見れるとかそういう場所って意外と少ないです。そういうのもちよっとなんかの情報発信の中で徐々にそういうことを付け加えられたらもともと賑わいが増すのかなと。現状の中でやっぱり行ったけどなんかパラパラとしとったよねという状態になりつつありますので、日曜祭日はそれは多いわけですけど、平日はそんな状態じゃないです。いろんな問題が、家賃の問題等も含めてあるでしょうけど、何らかの形で呼び名というか、ただの陶器市、有田陶器市というより、何らかの形で変えるようなこともやった方がいいんじゃないかなと僕自身は思っているんですけど、その件に関しては町長辺りはどういう考え。

〔今泉藤一郎議長〕町長。

〔松尾町長〕名前、陶器市という名称の変更でございますが、やはり120回以上続いてきている有田陶器市というブランドネームを簡単に変えると逆に逆効果になるかなという可能性もありますので、今風に言うと「有田陶器市2.0」とか、そういうバージョンアップしたっていうことをお知らせしながらやりたいなと。一つ、事例を挙げますと、九州山口陶磁展も有田国際陶磁展に変えましたが、やはり国際的についでという思いはあったんですけど、実際運営をしておりますと、なかなか海外から集まらないとか、そういったちょっと思いと自分たちの立ち位置の乖離があったというのが反省点としてあります。議員が今おっしゃっているような思いは私たちもありますので、ぜひその名前が世界陶器市がいいのか、というところは、いろいろ皆さんと今後検討しながら、じゃあ今日言って、今年言って、じゃあ来年とは簡単にはいかないと思いますけど。皆さんと本当に吟味しながら素晴らしいネーミングの有田陶器市、ネーミングが変わることによって、陶器市が素晴らしくなるとは一概には言えませんが、そういったことも含めてやっぱり我々もどんどんどんどん有田陶器市というのは人口減少の中でどうやってブラッシュアップしていくかっていうのはしっかりと検討していきたいと思います。

〔3番 久保田豊君〕ありがとうございました。ぜひ常に反省を踏まえて前向きに一步でも前に進めるような形で行って頂ければありがたいかなと思ってます。毎回、毎回、同じような質問等がありますけど、少しでも進んでますので、後退はしてないわけですから、そこは感謝を申し上げて、以上で質問を終わりたいと思います。ありがとうございました。

〔今泉藤一郎議長〕3番議員 久保田豊君の一般質問が終わりました。10分間休憩いたします。再開を14時20分といたします。

【休憩14:09】

【再開14:20】

〔今泉藤一郎議長〕再開します。5番議員 中島達郎君。

〔5番 中島達郎君〕5番議員 中島達郎、議長の許可を頂きましたので、通告に従い、一般質問をはじめたいと思います。今日はですね、質問事項として3つ用意いたしております、最初に、有田を活かす人材採用について。2番目に、校歌に学ぶ。3番目、新型コロナ後遺症の現状。この3点について質問させていただきます。初めにですね、有田を活かす人材採用ということで。全国から町職員の募集をとということで。SAGAスポーツピラミッド構想(スポーツのチカラで未来

をつくる)に準じた将来の有田町を支えるトップアスリート職員の募集をということで質問させて頂きます。では初めに、「スポーツのチカラで未来をつくる」山口知事は、佐賀県で国スポ・全障スポが開催される1年前からこのキャッチコピーのもと、世界に挑戦するトップアスリートの育成を通じて、最初からいきます。SAGAスポーツピラミッド構想(スポーツのチカラを未来でつくる)に準じた将来の有田町を支えるトップアスリート職員の募集をということで。では初めに「スポーツのチカラで未来をつくる」山口知事は、佐賀県で国スポ・全障スポが開催される1年前からこのキャッチコピーのもと、世界に挑戦するトップアスリートの育成を通じて、スポーツ、文化、する・育てる・見る・支えるの、すそ野を拡大し、更なるトップアスリートの育成につながる好循環を確立することでスポーツのチカラを活かした人づくり、地域づくりを進めるプロジェクト、SAGAスポーツピラミッド構想を提唱してきました。また県は、本年この構想の継続的、安定的な推進を図り、する・見る・支える・育てる・稼ぐを合言葉に、医療や福祉、スポーツビジネスなど幅広い分野でのスポーツ文化のすそ野拡大にも取り組んでいるところです。また、本町でも昨年12月、有田町と佐賀久光スプリングスとのスポーツを通しての包括連携協定が締結されました。そこで有田の未来像を前向きに考えてみると、例えば新春の箱根路を駆け抜ける第101回箱根駅伝大会では2年連続8度目の総合優勝を果たした青山学院大学陸上競技部長距離ブロック。また昨年10月に仙台で開催された第42回全日本大学女子駅伝対抗選手権大会で9年ぶり11度目の栄冠に輝いた立命館大学体育会女子陸上競技部の学生たちに、町職員採用試験の案内を送付したり、大学の就職支援課に相談したりして、採用した暁には、東京マラソン等で胸に有田のロゴマークを付けて走る、つまり動くネーミングライトですね、命名権、例えば、福岡ドームなんかは、命名権があり、みずほPayPayドームと呼ばれてますように、そうすることで当町の知名度はまた一段と上がり採用された職員も地域の子どもの指導にあたれば将来世界に挑戦するアスリートが有田から誕生する可能性も高くなると思うが所感をお聞かせください。

〔今泉藤一郎議長〕総務課長。

〔木寺総務課長〕 トップアスリートの職員募集ということについてお答えいたします。現在、町が行っております職員募集におきましては、年齢等の条件はありますけれども、住所地の制限はありません。北海道の人でも東京の人でも有田町職員採用試験を受験することは可能な状況になっております。そこを踏み込んでアスリートの方を募集対象とする場合に、通常の採用試験と呼びかけていくのか、ある特定の目的をもって、そういった募集をかけていくのかという点にお

きましては、現実的にはかなりハードルが高いと思います。以前、国体、現在は国スポにおきまして、開催県が大会終了後のスポーツ振興であったり、アスリートの地元定着でありますとか、そういった目的で県職員として採用するということは全国各地で今まで行われてまいりました。有田町は現時点では、バルナーズ、サガン鳥栖、久光スプリングス等々と連携協定を結びながら住民との交流を深めていっているわけですが、この大学とかアスリート、プロチームそういったところと関係を築いていくことで町内の子ども達への交流に広げていきたいというふうなことが現実的に今できることではないかと考えております。

〔5番 中島達郎君〕そうはおっしゃいますけども、そういった意味で、アスリートも有田町に増やしていくことも将来の県の構想ともあっていいことじゃないかなと思いますし、この画面上にあります就職支援ということで社会人アスリートの人生に寄り添う社会の創造ということも、県知事、このSSP構想の中でされています。だからそんなところの方針もありますし、その辺も前向きな姿勢で進めていければと思います。それから次の質問にいきます。それから移住定住に関しましては、まちづくりに関しては、よそ者、バカ者、若者が有田のことを普段と違った切り口で見たり、アイデアを出すと耳にしたこともあります。そういう意味も含めて、これからは全国から募集した職員も必要だと思いますが、いかが思いますか、町長どうでしょうか。

〔今泉藤一郎議長〕町長。

〔松尾町長〕今、議員ご質問の件でございますが、やはり全国からいろんな目をということで、いわゆる俯瞰的にとか、若者、バカ者、よそ者とおっしゃいましたが、そのような方々の視線が必要ということで、ご提案ありましたが、今現在有田町といたしましては、やはりいろんな大学と交流したり、アドバイザーとか、文化交流大使とか、いろんなことをお願いしているのは、そういう岡目八目的なアドバイスをもらいたいということも大きな一つの点でございますので、そういったところも含めて、やはり全国から募集してもですね、今、近年で言うとか関東方面の子が一人職員として今おりますが、そういった子が現実かなと思っております。また、先程、総務課長の方からお話がありました国スポの開催県がアスリートの地元定着とスポーツ振興のためにアスリートを県職員ということで、今回女子ウエトリフティングで活躍された安嶋選手が地元の有田工業高校の先生になる予定だということも聞いております。やはりそういった意味で、やはり有田町でできることと、県でできることってやはり全然レベルが違いますので、やはり県が推進されることに我々が寄り添ってサポートするような形がいいのかなと思っております。今回SSP構想を進めています日野総括監とは非常に懇意にさせてもらっておりますので、いろいろな情報を

含めて私もこの職員採用ということではなくて、このSSP構想というのは非常に今後有田町にとってスポーツ振興にとって大事だと思っておりますので、そこも含めて県と共同しながら検討していきたいなと思っております。

〔5番 中島達郎君〕吉田松陰の言葉に、夢なくしてなんとかならずっていう有名な言葉があります。だから町としてもそういった夢も抱えながらやってほしいかなと思いますし、それと移住定住に関しましては、町からはこういうことどうですかと提案があっても自分たち職員さんもよそから呼んで、さっきの、バカ者、よそ者じゃないけど、そういうことをするのも県とか町とか関係なく町の活性化にもつながるんじゃないでしょうか。町長、それは最初の時の公約にも、職員のグレードアップとかなんとかおっしゃってたし、そういった意味のグレードアップも私は必要じゃないと思うんですけどいかがでしょうか。

〔今泉藤一郎議長〕町長。

〔松尾町長〕募集ということですので、なかなかそこが非常に厳しいと思います。そこに有田町の独特、特徴的なことを言わせて頂ければ国際交流員で、今、テオマンがおりますし、そういった海外の職員がいるっていう非常にこういうちっちゃな町では珍しいことでもあります。そういったいろんな意味でやはり職員採用、職員募集に関しては、我々もアンテナを張りながらぜひいろんな均一じゃない、いろんな特徴を持った多種多様な職員を募集するように努力はしておりますし、そういったアンテナの張り方もしていておりますので、残念ながらすぐそれが願いが叶うということではありませんが、私も夢は夢で大きく思っておりますが、現実問題今のところは難しいというお話をさせて頂いたところであります。

〔5番 中島達郎君〕その辺一步一步積み重ねてよろしく思いますし、最後にですね、ちょっと一言言います。先月、開催されました一部事務組合の会合の終了後、会合に出席していた伊万里市長に、伊万里市役所は東西松浦駅伝大会で2度目の優勝、県内一周駅伝大会でも堂々の3位の成績ですごくいいですねとお声をおかけしました。そしたら、市長から大会に参加した職員達は昼休みも練習でよく頑張るし、仕事もよく頑張るんですよと満面の笑みを浮かべながら話してくれました。町長にもいつかこんなふうに言える日が来ることを期待して、次の質問にいかせたいと思いますけど、よろしいでしょうか。ではいきます。じゃあ校歌に学ぶということで質問させていただきます。小中学校の児童生徒たちに校歌の意味を考える授業をとということで質問します。学校を卒業して同窓会で必ず歌う校歌。大人になって各種行事や催事の開会の際に斉唱する国家と同様に、同窓会という催事の中でルーティンとしてみんなで必ず歌うのが校歌であります。しかし我々、僕ら

のですね、僕らの世代では、校歌の歌詞の意味についての授業とか受けた記憶もなく、年を重ねるごとに同窓会で校歌を斉唱する際に、はて、この歌詞の意味はと考えることも時々あります。

現在、学校において校歌の意味とかの指導はしているのでしょうかお尋ねいたします。

〔今泉藤一郎議長〕教育長。

〔吉永教育長〕ご質問の方にお答えいたします。実際、校歌の指導の機会としましては、正直な話を申しまして、私の指導してきた経緯も踏まえまして考えると、子どもたちに教える機会というのは、小学1年生、中学1年生の時なんですね。小学1年生に関しましては、初めてそういう歌を学ぶ、聴いて学ぶという形になります。中学生に関しましては、運動会ありますからそういうものを機に先輩から応援練習等で学ぶというのが一般的であります。今ちょうど今頃ですね、卒業式、入学式がございますので、その折にきちんとした校歌の指導が各学校で行われているという状況です。じゃあその内容ですけども、小学校の場合は、独特な言い回しや難解な言葉っていうのがありますので、そういう言葉を教えます。例えば、有田小学校の校歌で言う「さかまく怒涛夢見つつ」という言葉がありますが、これを1年生に教える。非常に難しいんですけども。これを子どもたちが「さかまつ怒涛」と読むんですね。なので、「さかまく」という言葉なんだよって教え方をしたり、有田中部小学校でいうと「朝（あした）国見の連峰（やまなみ）晴れて」といいますけど。「あした」という字は「朝（あさ）」と書くんですね。実際漢字で読むと「朝（あさ）」としか読まないのに、「あした」と読みます。これ雅語という言葉なんですけども。そういう言葉を子どもたちが後々漢字を見て知っていくという形になります。中学校においては、そういう言葉の意味、校歌の意味というもので教えるということもありません。校歌については、そういう深掘りをしながら学ぶということはほとんどありませんけども、校歌の意味、今、中島議員さんがおっしゃったような、やはり同じ学び舎で学んだ同級生や先輩たち、後輩たちの共有した思い出という意味でこの校歌があります。その校歌を聴いた時にまた、ああこういう歌だったね、こういう歌詞だったねって、思いを馳せるというのが校歌の良さではなかろうかと思っていますところですよ。校歌の指導については以上です。

〔5番 中島達郎君〕ありがとうございます。続きまして、同じく校歌について質問させていただきます。

校歌に何か思いを馳せることがあるか。例えばですね、平成29年か、これも文科省が道徳が教科じゃなくて、まだ指導する、学習指導要領の中の文言にあったんですけども。例えばこのような感じで道徳の学習指導要領に、この画面にあるように、先人の努力を知り、郷土を愛する心を持つことなどの意味が歌詞の中に含まれるようなものがよいのか。または、これは松任谷由実さ

んが作詞作曲した五島にある、長崎県立奈留高等学校の昔は校歌だったんですけど、今は愛唱歌になっています。愛唱歌「瞳を閉じて」のような誰からも愛されるような校歌もよいのか、教育長ご自身の校歌について何か思いを馳せることがあればお聞かせください。

〔今泉藤一郎議長〕教育長。

〔吉永教育長〕自分も小学校から高校、大学まで校歌というものはあったんですけども。校歌そのものに自分の馳せる思いというほどのものはないかなと感じています。先ほども言ったとおり、校歌そのものに大きな意味があるものではなくて、やはり同じ学び舎で学んだ思い出とか、そういうものが校歌のメロディーとか、歌詞とかに、ずっと思い出の扉を開けさせてもらう。そんな感じが校歌にはあるんじゃないかなと思っていますところです。実際、自分が校歌に思いを馳せるのは、自分が教えた卒業生が校歌を歌いながら最後の卒業式を迎えた時なんですね。あの時、子ども達、この1年間とか、この6年間、3年間どんな思いで過ごしてきたんだろうというのを思いながらその校歌を歌う姿というのを見えています。子ども達、涙ながらに一生懸命最後の校歌を歌っている姿があります。そういった姿を大事にしたいなと。ですので、今週末ですね、中学校の卒業式、18日には小学校の卒業式がありますので、その時に校歌を歌う子どもたちの姿っていうのを非常に楽しみにしながら卒業式に出向きたいと思います。以上です。

〔5番 中島達郎君〕ありがとうございます。校歌の在り方について今日は大変参考になり、勉強になりました。町長、校歌について考えありましたらよろしくお願いします。

〔今泉藤一郎議長〕町長。

〔松尾町長〕校歌に関して、思いを馳せるということであると、ちょっとピント外れかもしれませんが、やはり私も町議会議員、町長をやっておりまして、本当に町議会議員の時は母校の小中と行っておりましたし、今は、町内の各小学校、中学校回っておりまして、非常にそれぞれの特徴ある歌詞だなというところがあります。やはり教育長も申したように、歌う、一緒に歌うという行為自体がやはり思い出であり、何年か前も中学校の同窓会をやった時に、意外と歌えるもんだなみたいな感じがあります。その時にやはり思いが当時にタイムスリップして、思い出話に花が咲くみたいなことで、一つの経験則として非常に校歌というのは印象的なことだなと思っております。ちなみに私はあんまり音楽は得意でなかったのも、ちょっと歌ってはなかったんですけども。そういったところで、校歌というのは思い出とか、友情というようなことが導かされるきっかけになるなというところが所感です。

〔5番 中島達郎君〕ありがとうございます。なんか、その言葉に感動しました。思い出とか、友情

ですもんね。うっとりしました。ありがとうございました。ではですね、最後の質問にいきたいと思います。最後はコロナについて質問させていただきます。新型コロナの後遺症の現状についてということで。後遺症で苦しんでいる人の症状は、町または県や国などで具体的な後遺症の症例や相談事などがあればお聞かせください。

〔今泉藤一郎議長〕健康福祉課長。

〔川崎健康福祉課長〕まずは、後遺症について説明をさせていただきます。後遺症とは、新型コロナウイルス感染症に罹患した後に、感染症は消失したにも関わらず、他に原因が明らかではなく、罹患してすぐの時期から持続する症状、または回復した後に新たに出現する症状、そして症状が消失した後に再び生じる症状の全般を指し、世界保健機構WHOですけれども、こちらによると少なくとも2ヶ月以上症状が持続しているものを指すと定義をされております。また、後遺症の代表的な症状といたしましては、息苦しさ等を伴う呼吸器症状、動悸等の循環器症状、匂いや味などがしない等の味覚、嗅覚味覚症状、倦怠感や疲労感等の神経症状、睡眠障害やうつ病等の精神症状、頭痛やのどの痛み、関節痛等の痛みを伴う症状、湿疹や脱毛等の皮膚症状等があります。また、後遺症の患者数につきましては、有田町や佐賀県の後遺症患者数や割合はちょっと把握をしておりますけれども、国による令和5年度のコーホート調査が2つの市、大阪府八尾市と札幌市で実施をされております。その結果では何らかの後遺症の症状を有したと回答した割合は時が経つにつれて低下をしますが、感染から18ヶ月後には成人で約5%、小児で約1%となっております。頻度が高い症状は、睡眠障害、疲労感、倦怠感、頭痛、集中力低下であったと公表をされております。なお、この研究の後遺症は、自覚症状に基づいてのみ評価し、医学的に診断されたものではないため、他の疾患に伴う症状が含まれている可能性があります。また後遺症の相談につきましては、これまで町で直接相談を受けたことはございません。以上となります。

〔5番 中島達郎君〕すみません、お尋ねですけど、コーホート調査っていうのは、追跡調査みたいなもんですか。

〔今泉藤一郎議長〕健康福祉課長。

〔川崎健康福祉課長〕こちらはですね、コーホート調査ではですね、地域を絞って期間、定期的に何年か引き続いて調査を行うという調査になります。

〔5番 中島達郎君〕地域を絞って定期的に行う調査がコーホート調査ですね。はいありがとうございます。後遺症につきましては、私も2年前の6月でしたか、私もコロナに感染したときに、ずっと鼻の調子が悪いなということで、だいぶ回復したんですけど、すみません、私事で。去年か、

10月でしたか、末に、福井県の方に所管事務調査で研修に行った時に、ちょうど9番議員が「磯の匂いのするですよ」って言った時に、私は「へっ？」て。そういえば海は近いけどわからなかったんですよ。かすかな匂いがまだわからないんですけど、そのうち治るかなっていう感じは、生活に関しては差し支えないんですけど、そういった私も後遺症はあることはあります。では、同じくコロナのことについて質問をさせていただきます。後遺症の解決策などについての国からの指針はあるか。実はですね、佐賀新聞の方の本年1月7日付の佐賀新聞に国内初確認から5年、繰り返す流行感染700万人、死者13万人、コロナ今も社会に負荷と一面に取り上げられていました。この記事の末尾には国はコロナの、ちょうど赤線でちょっと見えにくい、これが、ここですけども、赤線でちょっと引っ張ってますけど。国はコロナの経験を次のパンデミックに活かそうと今年4月に政府に科学的助言をする。国立健康危機管理研究機構を設立するとありましたが、現時点で国から何らかの指針はあるのかお尋ねします。

〔今泉藤一郎議長〕健康福祉課長。

〔川崎健康福祉課長〕この国立健康危機管理研究機構についての説明をさせていただきます。こちらの方は、政府に科学的知見を提供する新たな専門家組織として感染症等の情報分析、研究、危機対応、医療提供等を一体的、包括的に行之、国内における感染症の蔓延、その他の公衆衛生上、重大な危害が生じ、または生じる恐れがある緊急の事態の予防、及びその拡大の防止並びに国内外の公衆衛生の向上及び増進に寄与することを目的として設立をされます。この機構の設立につきましては、先程議員さんおっしゃったように、今年の4月、もう来月というふうになりますけれども。現時点における国、県が行っている後遺症に対する取り組みについてちょっとお答えさせていただきます。まず、実態把握としまして、厚生労働科学研究事業において、後遺症の発生頻度や症状、経過などの実態把握のための疫学調査が令和2年度より引き続き行われております。また、適切な医療へのアクセスとして、後遺症の診療が可能な医療機関につきまして、国及び県のホームページで公開をされており、町内では石井内科、伊万里市内では星のライフクリニックが登録をされております。なお、症状によっては、さらに高次医療機関である佐賀大学医学部へ紹介をされる予定となっております。また、社会保障制度による支援といたしまして、個人の状況により、労災保険、傷病手当金、障害年金の対象になり得るほか、生活にお困りの方は生活困窮者自立支援制度において相談支援等を実施するようになっております。最後に、情報の周知と啓発として、厚生労働省や県のホームページ内に後遺症の症状に関する情報がまとめられ、公開をされております。以上となります。

〔5番 中島達郎君〕ありがとうございます。貴重な情報ありがとうございました。本当、今年もなんか密かにじゃないですけど、コロナの感染が増えてますし、もちろんインフルエンザもなんですよ、くれぐれも体に注意しないといけない状況にもまたそういうことが高まってまいりました。本当に注意しなきゃいけないかなと思います。それから、最初の質問の時に、町長に若干きつく当たって申し訳ないです。夢を追うのも、私も年取ってきて気が短くなって、直ぐ回答出すなというところもあって、その辺ご辛抱ください。頑張ってください。じゃ、どうもありがとうございました。私の一般質問終わらせて頂きます。

〔今泉藤一郎議長〕5番議員 中島達郎君の一般質問が終わりました。10分間休憩いたします。再開を15時といたします。

【休憩14：48】

【再開15：00】

〔今泉藤一郎議長〕再開します。12番議員 池田榮次君。

〔12番 池田榮次君〕ただ今、議長の許可を得ましたので、通告に従って一般質問をさせていただきます。お尋ねする前にですね、ちょっと不適當な言葉を私が使っているようでございますので、設問項目の5番目の末尾「伊万里市の公共下水道に接続する可能性」「する」というのを「できる可能性は」ということで修正をお願いできればありがたい。それからその上の（4）の、集落排水事業に補填としておりますが、それは受ける側によって補助、ないしは補填という受け取り方をして頂くということでお許しを頂きたいと思います。早速、下水道事業につきましてお尋ねいたします。このお尋ねはもう既に3回目になります。まことに申し訳ございません。3番議員さんは、今日は朝からトイレの話をなさいましたけれども、また、私はトイレの話でございます。匂うような話ばかりでまことに申し訳ないと思いますが、なかなかこの単独処理下水道の、単独処理槽の解消が進まないというような話も聞きますし、公共下水道の接続率もなかなか進まないようなところもあると聞きますので、一つ、3回目にもなる、お尋ねすることをお許しを頂きたいと思います。資料は古うございますが、私が持っている資料は古うございますが、平成26年度の環境省の調査資料では、有田町の単独処理浄化槽個数522基、そのうち年1回の検査を実施した基数は232基、率にして55.4%、約半数のご家庭では有田川に垂れ流しの状態だという資料になっております。平成12年にご承知のとおり、国は単独処理浄化槽を禁止しているが、それを受けて旧有田町は、主として公共下水道、旧西有田町は合併処理浄化槽を選択したわ

けでございますが、残念ながら公共下水道につきましては、接続率が極端に悪いところもあると聞きます。それぞれの実態につきまして現況をご説明頂きたいと思います。

〔今泉藤一郎議長〕 上下水道課長。

〔井筒上下水道課長〕 単独処理浄化槽と公共下水道の実態ということだったと思います。まず、単独処理浄化槽につきましては、許認可及び管理が佐賀県でございます。なので、最新の情報は佐賀県にしかございませんので、県の方に一応確認を取りました。現在の設置基数は約500基という回答を得ております。また昨年から7基減少したと聞いております。また、町では公共下水道の接続の際には排水計画というのを提出頂いております。その際に、図面を確認することができるのですが、その図面から単独浄化槽、もしくは合併処理浄化槽から下水道へ転換されたのは、令和3年から令和5年度までにおおよそ64基が確認されております。今、モニターの方に出させて頂いたところですが、下水道の接続状況ということでございましたので、議長に許可を得てモニターの方で提出をさせて頂いております。一番上の方が公共下水道、これは水道の接続件数ですね。水道に契約をされている事業所等も含みますけれども、その接続件数に対する公共下水道の接続率というのを出しております。令和3年3月末、いわゆる令和2年度末と令和7年1月末、一番最新の部分でございます。その表を載せて頂いております。令和2年度から本年1月末までに比較したところ、当然すべての地区で公共下水道の方の接続は伸びてきております。全体としては4.7%伸びてきているような状況でございます。以上です。

〔12番 池田榮次君〕 もう一回、4.5%どこにありますか。

〔今泉藤一郎議長〕 上下水道課長。

〔井筒上下水道課長〕 合計のところを差し引いた数が4.7%という状況になりますので、4.7%という数字は載せておりません。

〔12番 池田榮次君〕 この資料を私も初めて見させてもらったんですが、例えば公共下水道の接続率がこの1区、2区から分けて見る限りにおいては、泉山が一番遅く接続されたと思うんですが、3区というのが内山地区という理解をとりあえずさせて頂きます。私も内山地区というのは範囲をしっかりと捉えておりませんので、そうすると、いわゆる内山地区というのは接続率が一番悪いとみてよろしいですか。

〔今泉藤一郎議長〕 上下水道課長。

〔井筒上下水道課長〕 一番悪いと言われますと、どうかと思いますけれども。先程述べましたとおり、すべての地区でそれなりにずっと伸びてきているという理解はしております。

〔12番 池田榮次君〕じゃあ悪いという表現は、私も修正しましょうね。低いということに修正しましょう。今、単独処理浄化槽の現況、ないしは公共下水道の接続率を聞いたわけではありますが、実は長年この、特に泉山を最後に公共下水道が接続されたわけですけども。もう長年この今の3区を中心として接続率が良いとは思えない。すなわち、実は、内山地区には、ある資料では単独処理浄化槽が107基ありました。ある資料ですから皆様お持ちじゃないと思います。それから年1回この単独処理浄化槽については、県定期検査、定期清掃と定期検査っていうんですか、その義務が課せられているんですが、それがようやく50.2%、約半数がこれまた浄化、未清掃ですね。清掃されていないという数字が出ておりました。だから先ほど申し上げましたように、平成26年度のいわゆる率から見ると約半数、どちらも約半数が検査、未検査ということで、垂れ流しの状態になっているということは、率はあんまり変わっていないんですね。先程、町長の施政方針の中に、農業集落排水事業のこともちょっと触れられましたけれども、単独処理浄化槽のことについては全く言葉としても出ておりませんし、予算化も聞いておりません。実は、これは一昨年の、これは議会だよりをコピーしたんですが、一昨年の私の質問に対しての答えが、実は単独処理浄化槽を公共下水道もしくは合併処理浄化槽に転換する時には国からの補助もあるんですね。それを一つ、町長進めてもらえないかという質問をしたんですが、国の補助内容を精査し、公共下水道や合併処理浄化槽への転換、農業集落排水事業への接続促進にも生かす検討を進めるというご答弁を頂いております。先程ちょっと申し上げましたように、せっかくこのご答弁を頂きながら、令和7年度の施政方針にも残念ながら言葉も載ってないし、もちろん予算化もされておられません。この辺りの状況について、町長いかがお考えかお聞かせ願いたいと思います。

〔今泉藤一郎議長〕上下水道課長。

〔井筒上下水道課長〕その件につきましては、すみません、何月の議会でしたか、何年の何月というようにははっきり覚えてませんけれども、当時の上下水道課長がですね、やはり公平性が保てないという形で補助事業につきましては、断念するという事で答弁をしております。単独浄化槽から合併浄化槽への転換についてのみ、屋内排水に対する補助、また単独浄化槽の除去、区に対する補助が国庫で設立されておりますけれども、それについて町が補助を行った場合、例えば合併浄化槽から公共下水に、し尿から合併浄化槽に、そういったところに対しての助成、補助金がないということで、当時の上下水道課長が一般質問の折に、その件については今のところ検討はできないという状況で回答はさせて頂いているところです。

〔12番 池田榮次君〕私は町長のご答弁について説明をし、なおかつ、改めて町長にお尋ねをしま

した。町長からどうぞ。

〔今泉藤一郎議長〕町長。

〔松尾町長〕今、課長が述べたとおり、当時の課長と協議をいたしまして、やはり公平性というところに鑑みてということで断念しております。

〔１２番 池田榮次君〕ちょっとよくわからなかったんですが、当時の課長と現在の課長と人間性は違うんですが、答弁内容は同じあるべきなんですが、お答え頂きたい。

〔今泉藤一郎議長〕町長。

〔松尾町長〕別に以前の課長でも今の課長でも話す内容は一緒でありまして、結果的に公平性が保てないということで議員のご提案の件に関しましては、ちょっと手を付けてないという状況です。

〔１２番 池田榮次君〕町長もそういうお考えですか。

〔松尾町長〕はいそうです。

〔１２番 池田榮次君〕いわゆる町長も単独処理浄化槽をできるだけ早く減らして、そして有田川の水をきれいにしていこうというお気持ちはないんですか。

〔今泉藤一郎議長〕町長。

〔松尾町長〕単独浄化槽のそういう件に関しましては、気持ちは同じですけども、やはり公平性とか、単独のそれだけを考えていけばいい事業ではございませんので、町民の皆さん全員が納得いく形を選びたく私は選択しております。

〔１２番 池田榮次君〕有田川の水をきれいにしようというのは、だれかれということではなくて、町長が有田川の水をきれいにしていこうという本気度を聞いているんですよ。どうですか。

〔今泉藤一郎議長〕町長。

〔松尾町長〕理解頂けないのならそのとおりだと思いますが、私は本気で思っております。

〔１２番 池田榮次君〕ああそうですか。今、みなさんもお聞きのとおり、町長の本気度は有田川の水を浄化していこうという本気度は今お聞き頂いたとおりだということで、これは、いくら何回聞いても水掛け論に終わる可能性がありますので、先に進ませて頂きます。単独処理浄化槽を無くして、合併処理浄化槽、または公共下水道事業への転換というものを、実は当時、各集落にそういう転換の促進を図る推進委員さんというものを居た時期があります。今の状況を町は区長会等にも実態を説明して、そういう公共下水道、単独処理浄化槽を無くし、なおかつ合併処理浄化槽もしくは公共下水道への接続というものも要請したことがありますか。どうですか、町長。

〔今泉藤一郎議長〕上下水道課長。

〔井筒上下水道課長〕当時、旧西有田町時代から合併後、平成２７年まで当時の区長会の方に汚水処理、当時の区長会と汚水処理推進協議会というのを設立して、いわゆる公共下水道でありますとか、合併浄化槽への接続推進というのを一緒にお願いしてさせて頂いたところがございます。ところが区長会との協議の中で、やはり区長さん達も下水道に関する知識でございますとか、そういった推進しながらの説明に不備があっては困るというお話が出まして、平成２８年を最後に区長会の方に推進とか要請とかいうのはやった実績はございません。

〔１２番 池田榮次君〕ということは、その区長さん達もご自宅が単独処理浄化槽だからよそに言う、なんとなく言いにくいというようなことに捉えてよろしいですか。

〔今泉藤一郎議長〕上下水道課長。

〔井筒上下水道課長〕もしかしたらそういう区長さんもいらっしゃったかもわかりません。当然、旧西有田町地区については、下水道、すみません、浄化槽区域になっておりますので、まだまだし尿ですね、し尿の汲み取りの区域が多ございますから、当然そういった区長さんもいらっしゃったかもしれません。ただ、それが原因とは当時どうだったかは今のところ分からないというところ です。

〔１２番 池田榮次君〕実は町長もご記憶だと思いますけれどもね、私はやや失礼な言葉を言うたかもわかりませんが、町長一つ、町内を長靴履いてえんかん服着て回って、町の施政の状況を進捗状況を見て回ったらどうですかということまで申し上げました。そして、また、町の施策や、あるいは特に東地区を中心とした各ご家庭、特に町長にお願いしたいことは、町長が関係される団体等にそういう単独処理浄化槽からの転換等をですね、要請してくださいというお願いをした経過もでございます。町長からそういう団体をお願いをなさったことがありますか。

〔今泉藤一郎議長〕町長。

〔松尾町長〕今、議員ご提案のとおり、以前お願いをされた経緯はございます。残念ながら各家庭ということに関しましては、当時の水道課の職員とか、他の県内の町長さん等にもご相談しましたが、それはやはり人の戸をまたぐということは、町長が行くことは威圧行為になるのではないかなということで、団体とかに勧められた方がいいよというアドバイスを受けました。そういうこともございまして、正式な区長会、その区の区長会ということに呼ばれたこともありませんので、言うことはありませんが、小さな少ない団体や老人会のちょっと集まりの時に呼ばれた時にはこういったお話を正式な場ではなく、いろんなお話の中の一つとしてこうやって早くして頂いた方がいいですねぐらいのことは言っております。やはりそのような状況で少人数の集まりの時に

話をしてまいりました。それとあとはすみません、接続済みのところが大変それはいいことです。また、コロナ禍になりまして、特に有田町は景気が低迷した中でご家庭、団体様の収入が大幅に減少している傾向にありました。そのような中、倒産などがないように国による雇用維持の支援など行っている中に、新たな負担として我々が接続推進を図ることは負担が大きすぎるという判断もありまして、コロナ禍の時には控えておりました。話の端々でそういった話をできるだけ私もするようにしております。えんかん服を着て長靴を履いて町内は回りませんが、私もランニングしたりしてそのような中で状況を確認をしたり、そういう区長さんと立ち話をしたりということはやっております。この結果が出てないか、つながっているのかというのは私はわかりかねますが、議員と同じような思いでいることは間違いございません。

〔12番 池田榮次君〕町長ですね、平成12年の話、平成12年に国は単独処理浄化槽の新設は禁止しました。だから国が禁止をし、そしていろんな機関で単独処理浄化槽を無くしましょうと、水をきれいにしましょうと運動していることですから、何も団体等に遠慮する必要はないじゃないですか。堂々と言っていいんじゃないですか。

〔今泉藤一郎議長〕町長。

〔松尾町長〕別に団体に遠慮していることはございません。ただ、呼ばれない席に行くわけにもいかないし、目的が違います。それと、やはりそれぞれの土地のもった特徴があります。有田、岩盤が硬かったりとか、岳でいえば棚田の方にあられると、それぞれの特徴の中で当時ベストだと思う方法でやられてて、国が出された方法でございますので、その方向に行くべきだと思いますが、全で一気に行くようであれば国に堂々とやってもらいたいくらいです。

〔12番 池田榮次君〕特殊な事情は特殊な事情で除外してでもいいじゃないですか。私が申し上げているのは、一般的にまたわざわざ呼ばれん座敷には喋られんという話も出ますけれども、そうじゃなくて、町長がいろんな団体等にご出席頂く時に堂々と一般論として要請をなさることは何も支障がないとは思いますがどうですか。

〔今泉藤一郎議長〕町長。

〔松尾町長〕それぞれの団体で呼ばれている趣旨がいろいろありますので、言える時はできるだけ言っていきたいと思います。

〔12番 池田榮次君〕やっぱりこういうことは町長から率先してお願いをして頂くことが一番効果があると思います。もちろん、今、各家庭に上下水道課がお作りになった資料だろうと思いますが、永久保存版として、合併処理浄化槽等々の公共下水道接続率状況等が資料が配られます。そ

れら以外に、そういう、なんですか、雑音を入れないでください。そういうことをね、やっぱり言うて頂くことが一番大事だと私は思っていますが、どうですか。

〔今泉藤一郎議長〕町長。

〔松尾町長〕水道課の方で作っている資料もございます。そういったものを持っていろんなところでお話はしていきます。そういったところで考えて頂ければと思いますが。やはり私も水道事業だけではなくいろんな仕事がございますので、もちろん思いとしてはあるので、そういったところを今後はもっと展開をしていきたいと思います。

〔12番 池田榮次君〕町長がお出かけになるたびに、この公共下水道とか単独処理浄化槽のことはかり話してくださいとは言ってません。そういう機会、そういう機会いくらでもあると思いますので、ぜひですね、有田川から流される水をきれいにしましょう。有田川の水を伊万里市の市民は飲み水として使っているんですからね、やっぱり我々上流に住む人間の一つの義務としてでも水をきれいにしながら流していく、これはある意味での義務だと思うんですよ。その点一つ、今後町としてももう少し積極的にそういう単独処理浄化槽の一つ取り止めて、公共下水道なり、あるいは合併処理浄化槽に転換してくれませんかという呼びかけをぜひやって頂きたい。それをお願いしたいんですがどうですか。

〔今泉藤一郎議長〕上下水道課長。

〔12番 池田榮次君〕いや、町長にお尋ね、ご相談してます。

〔今泉藤一郎議長〕町長。

〔松尾町長〕はいやります。

〔12番 池田榮次君〕おやりくださいよろしくお願い申し上げます。それでは、次の5番目の農業集落排水事業への補填額としておりますが、補助額とお読み頂いても構いません。農業集落排水事業につきましては、楠木原、山谷牧での公営企業として実施されております。これまた長年赤字が続いておるわけでございますが、過去10年間で一般会計から補填もしくは補助した額はあれば教えてください。ありますね。ありますから教えてください。

〔今泉藤一郎議長〕上下水道課長。

〔井筒上下水道課長〕これもモニターをご覧頂ければと思います。企業会計には定められた基準内で繰り入れをする額と、それと定められた基準以外、基準外と言いますけれども、基準外繰入とございます。過去10年間ということでございましたので、平成26年から令和5年まで、農業集落排水へ一般会計から繰入れた額をここにお示ししているところです。10年間の合計としまし

て、基準内の繰入額が2億3,291万です。基準外の繰入額が1億9,042万8,000円ということになっております。以上です。

〔12番 池田榮次君〕 こういうところで基準内とか、基準外と聞くと、ちょっと私たちは、私は素人ですからわかりにくいんですが、これこれは、これこれの範囲内の数値は、町から補助を受けていいというような基準があるんですか。

〔今泉藤一郎議長〕 上下水道課長。

〔井筒上下水道課長〕 総務省で定められているもので、いわゆる利用料、使用料ですね、使用料をもって充てることができないと認められているものが基準内の繰入、いわゆる一般会計から繰入でいいですよというものです。ただ、維持管理をしている中で使用料だけでは賄うことができない部分についてはいわゆる基準外という形になります。

〔12番 池田榮次君〕 なるほど、少しわかりました。皆さん、町議会の議員の皆さんには、ご理解頂いたかどうか私にはわかりませんが、私もちょっとだけしかわかっておりません。その基準内、基準外のことににつきましては、あとでまたお聞きしに来るかもわかりません。可能、いわゆる基準内、総務省の基準があるそうですが、その許可された範囲内であれば補填を受けているという理解をしてよろしいんですね。

〔今泉藤一郎議長〕 上下水道課長。

〔井筒上下水道課長〕 補填というよりも一般会計側からいわゆる企業へ繰り出すのを認められている額、企業側から言いますと、繰り入れていることを認められている額という形になります。補填ではないです。

〔12番 池田榮次君〕 補填ではない。しかし、公営企業側から見ると補填を受けているわけ、補助を受けるわけでしょ。

〔今泉藤一郎議長〕 上下水道課長。

〔井筒上下水道課長〕 その補助がいわゆる基準外繰入という形で繰り入れをさせて頂いているところですよ。

〔12番 池田榮次君〕 次に、下水道の最後の問題につきましてお尋ねいたしましょうね。楠木原農業集落排水事業につきましては、町長の施政方針にもそれから予算化も事前説明も以前受けましたけれども、楠木原地区につきましては、予算化もされていたようであります。いわゆる実施に向けたことがおやり頂けるのかと思います。ご承知のとおり、共立病院は、伊万里市の公共下水道に接続をしています。伊万里市と有田町は自治体が異なりますので、簡単ではないと思います

けれども、山谷牧の農業集落排水事業を共立病院の公共下水道を経由して伊万里市の公共下水道に接続できる可能性をお聞かせください。

〔今泉藤一郎議長〕 上下水道課長。

〔井筒上下水道課長〕 山谷牧の前に今おっしゃった、楠木原の件でございますけれども、楠木原については、調査をやっているということでお話をさせて頂いたと思います。そういった理解でよかったでしょうか。

〔12番 池田榮次君〕 なんですか。

〔井筒上下水道課長〕 楠木原の件については、先程おっしゃった中で、ちょっと疑問がございましたので、楠木原については、今現在、公共下水道に接続できるか調査を今、行っているところですが、けれども、そういった予算が付いているというお話でよかったんでしょうかということなんですけども。

〔12番 池田榮次君〕 その事前説明会の時に、その程度のことは受けましたから申し上げただけです。

〔井筒上下水道課長〕 楠木原については、おっしゃったとおり、今年の予算で調査をかけております。それは下水道側からみた時です。本年度の当初予算で今回計上させて頂いておりますけれども、今度は農業集落排水側からみた場合に、公共下水道に接続したらどうかというのを調査を今年度かけていきたいと考えております。また、山谷牧地区の農集を伊万里市の公共下水道に接続できる可能性がということでございますけれども、当然先ほど議員さんがおっしゃったとおり、自治体がまず異なりますので、当然いろんな問題があろうかと思います。なので、私どもは研究はしたいということで回答に変えさせて頂きたいと思います。なお、県の主導で公共下水道事業、農集も含むんですけれども、下水道事業の広域化、共同化という検討は進められております。ただ、今のところですね、どことどこやりますとか、そういった具体性はまだございません。ただ、いずれにしろ水道も一緒でございますが、人口減少の中で単独ではなかなか難しいものがございますので、県主導では広域化、共同化というのを検討が今始まっているところでございます。

〔12番 池田榮次君〕 この楠木原の農業集落排水事業を有田町の公共下水道事業に接続できないかどうかのことににつきましては、全員協議会の時でしたかね、説明が、質問があつて、その後、今回の予算をじっと聞いておりましたら、そういう予算化もされておりましたから、あえて尋ねました。となると、今、申し上げたように、山谷牧と、山谷牧集落と共立病院は楠木原よりも近いですから、ひょっとしたらそれが可能ではないか。ただし、自治体が異なりますので、いかな

ものかという疑問も私にもあります。ただ、上下水道課長から事前に、民営化問題について質問があった時に、現在は自治体間での接続が話し合いとして出ているというような話も聞きましたので、ひょっとしたら伊万里市の公共下水道と接続できる部分があるのではないかなという気持ちから、私は今回、山谷牧の農業集落排水事業を共立病院経由で伊万里市と接続できればいいな、むしろ、ただ、負担額がどうなるかという問題はちょっと私は数字的なこと、あるいは事業費がどうなのかもわからないまま聞いておりますので、可能性としてお聞きしたわけでありまして。ご協議、研究をして頂くという理解をしてよろしゅうございますか。

〔今泉藤一郎議長〕 上下水道課長。

〔井筒上下水道課長〕 まず、研究という前に先程お話があった、いわゆる一般質問の時に、民営化でありますとか、そういったお話があったということですが、それは、あくまでも水道事業のものです。水道事業については、具体的に広域化していこうという、具体的に広域化していこう、合併していこうという方向性が出ておりますので、やはり協議には入っております。先程申しましたとおり下水道に関しては、検討は進められておりますけれども具体性は今のところございません。なので、今後そういった話が出てくるかと思っておりますけれども、今のところどこどこそういった具体性はございません。ただ、おっしゃったように、当然距離的なもの、近いとか、お話がありましたけれども、研究はさせて頂きたいということでご了承頂ければと思います。

〔12番 池田榮次君〕 私は聞き間違いが一部あったようでございますね、その点はお詫びを申し上げます。最後にですね、忠魂碑の問題につきましてお尋ねをいたします。写真をちょっと出して頂けますか。今、タブレットにも出ておりますが、これは唐船山に建てられております旧大山村がお建てになったと思います。第二次世界大戦が終わって、おそらく昭和25年ぐらいから30年頃に建てられたと思いますけれども、本当によく長年ですね、風雪に耐えた状況であります。私も戦中派でありますので、時折お参りをいたします。戦後80年、各集落で慰霊祭もだんだんだんだん遺族の方の高齢化もありまして減りつつありますが、当時の大山村が建てた忠魂碑なので、いわば町の忠魂碑という理解をしていきたいと思っております。現在、確か、大木宿の老人クラブの方かな、老人クラブの方々が確か、清掃をやって頂いていると思っております。ところがですね、この土台、ここに土台がありますね、ここに土台がありますけれども、ここの奥の方はですね、向こうが逆に低くなっているんです。奥の方が低くなっています。穴ができておりまして、これには私も雨の日に登ってみたらやっぱり雨水が向こうに流れ込んでいるんですね。これは長年、先程申しあげたように80年直後から入り込んでるわけじゃないですから、ある年からだん

だんだん水が入り込んでいっているんじゃないか。さらにはですね、ちょっと次の画面も見て頂きましょう。これは今の忠魂碑に登る石段ですね。約45度近くかな、45度近くの石段があります。この幅がですね、この石段の幅が約20cmしかありません。私の足では真っすぐは立てません。従って、私はこっちに向けこっちに向けしてですね、登らざるを得ません。これは大方の方が、私は26センチの靴を履きますけども、大方の方が真っすぐ上がれないと思います。これは何とか一つ石段を改修してもらわないと危ないなと。本当に危険極まりない石段となっております。ご承知と思いますが、ここの下の辺りには、旧大山中学校があります。私たちが、私もそこを卒業したんですけれども、その下には大有田焼会館、ごめん、会館じゃないですね、大有田観音か、大観音ですか、大観音があったりですね、それから今、飲食などなさるようなところもありますし、もしですね、もう一度戻って頂けますか、これはこの石碑というものはものすごく大きくて高いんですね。よくぞ倒れなくて済んだもんだと思うんですけれども、相当80年近くなっておりますので、コンクリートも劣化していると思います。幸いにして、この地域はご承知のとおり地震も少のうございしますので、倒れずに済んだと思いますけれども、このままいわゆる水が入るままにしておいたり、あるいは石段の幅もこんなに狭い状況では将来が危ぶまれますので、なんとかですね、補強、強化、あるいは雨水の侵入等を一つ策を講じて頂きたいと思いますが、ご答弁はいかがでございますか。

〔今泉藤一郎議長〕住民環境課長。

〔淵住民環境課長〕忠魂碑が建立されている現地を確認いたしました。石段の幅については、20センチぐらいで確かに狭いと感じました。以前も同じような相談がありました時に、拡幅の工事について検討した結果、拡幅というのは難しく、平成30年3月に、この中央に手すりを設置したという経緯があります。現状の手すりを利用して頂きたいと思います。また、忠魂碑の土台や忠魂碑の裏側に一部空洞が見られました。また、忠魂碑に登る階段にも数箇所空洞が見られました。その分については、修繕が可能かどうか関係者の方と相談しながら対応を検討したいと考えております。以上です。

〔12番 池田榮次君〕今から、先程申しあげたように、何とか今後これをこのままでさらに補強していくのかにしてもいずれにしても補強策、改善策はぜひ講じて頂きたい。そういうことを検討するということで、検討して頂くということによろしいですか。

〔今泉藤一郎議長〕住民環境課長。

〔淵住民環境課長〕検討したいと考えております。

〔１２番 池田榮次君〕 ぜひですね、一人でも怪我等が、忠魂碑の前で怪我とかあるいは何かあったらちょっと大ごとですからね、ぜひそういう事故等が発生する前に補強策等やって頂くということをお願い申し上げて、私の一般質問を終わらせて頂きます。ありがとうございました。

〔今泉藤一郎議長〕 １２番議員 池田榮次君の一般質問が終わりました。以上で、本日の日程は全て終了いたしました。本日はこれにて散会いたします。お疲れさまでした。

【散会 １５：４０】